特定非営利活動法人会津ワイナリー会 2022年度事業報告

1. 総括

- 1)3年目を迎えたコロナ禍と今年も発生した気候変動の中で、当会の事業も大きな影響を受けた。その中で、栽培支援者の多大な協力により事業計画目標(6.6トン)を上回る7.0トンの収穫を得た。しかし8月時点予想(7.5トン)に対しては、9月の日照不足・病害発生により歩留りを落とした。
- 2) コロナ禍の影響は、①全国的な移動自粛、3 密回避から今年度もグリーンツーリズム・懇親会や試飲会の中止を余儀なくされ会員誘致が進まず会員数が減少した。②ワイン販売量はワイナリーツーリズムや試飲会を開催かなわず目標の2,700本は達成できなかったものの、理事各位の販促努力により2,600本を超えた。③コロナ対策の下、年間を通して会員ボランティアによる栽培作業を継続したものの現地契約者・シルバーセンターへの委託費が増大した。④移動自粛継続から実施予定の栽培パートナー制度に踏み切れなかった。
- 3) 今年は早期梅雨明け、7月猛暑、8月多雨、9月の日照不足の影響により、①8月のベト病、灰カビ病、9月初旬より白腐病が継続的に発生し収穫が10%強(約800kg)減少し、②薬剤散布、病害駆除委託費が膨張した。
- 4) これらは年間事業計画に対し制約を生み、①栽培パートナー制度実施②ワイナリーツーリズムによる既存ワイナリー研修③ふくしまワイン広域連携協議会参画による地域活動④ICT 技術の研究・活用による気象データ・作柄データ対策、獣鳥害対策 の未達事項が生まれた。また、⑤NPO と新組織の役割分担によるワイナリー事業比較検討が 2023 年理事会に繰越しとなった。
- 5) 一方、達成した事項としては、①地元委託者「壱心」と栽培業務(薬剤散布、草刈り含む)と継続的な栽培体制を構築②シルバーセンター複数名と固定的な栽培委託をし、安定的な体制を構築③生育不良であった6・7号及び8・9号畑の生育④販促活動展開による2021ヴィンテージ2,628本(目標:2,700本、2020:2,052本)の販売⑤期限付き販売免許によるイベント出展2回(100本以上を販売)⑥当会ぶどう醸造ワインのコンクール初入賞⑦ぶどう販売(約4.4トン、約160万円)⑧醸造担当者による「テースティングノート」継続がある。

2. 会員勧誘活動

- ・目標会員数 正会員 新勧誘目標 10 名⇒実績 5 名(賛助→正会員 0 名、累計 101 名)
 賛助会員 新勧誘目標 10 名⇒実績 1 名(累計 69 名) 以上 12.31 時点
- ・目標会費額 正会員・賛助会員合計 目標 157.5万円⇒実績 138.5万円
- ・広報活動 ホームページからの情報発信→継続強化し計 34 回(昨年 57 回、うちテイスティングノート 12 回)発信と昨年比▲39%、栽培作業速報、ワイン知識等内容は充実

3. ぶどう栽培活動

- ・ぶどう苗作付 苗5本程度を1号畑から移植。
- ・ぶどう畑管理 計 9 反約 350 本を栽培管理、収穫量:約7.0 トン平均糖度:約19.5 度(1~9 号畑)。 芽かき、誘引、ビニール掛け・撤去、副梢・花かす取り、摘心、病害除去、秋・冬季 剪定等を実施。⇒福島県下天候不良の中で4.5.6 号畑の生育は良好で各畑1 トン以 上を収穫、特に6 号畑は大きく予想を超えた。2.3.7 号畑は白腐病が大量に発生し、 歩留まりが平均80%にとどまった。懸案の8.9 号畑は各200 キロを超えようやく軌

道に乗った。病害による減少率は約 10% (約 800 kg)、鳥害・日照り害はそれぞれ 1% 未満と少なかった。

• 栽培体制

一条悟氏の指導により継続して壱心に薬剤散布、機械草刈り及び栽培業務を委託した。会員を対象としたグリーンツーリズム・栽培体験は実施できなかったが、会員有志・壱心・シルバーセンターによる体制で乗り切った。栽培時間:合計 2558 時間(昨年 2400 時間)のうち、委託者:332 時間(同 318 時間)、シルバー:367 時間(同 450 時間)、ボランティア:1559 時間(同 1632 時間)

4. 栽培活動(コロナ禍・移動自粛の中、会員有志、地元支援者により実施)

- 1) (4.2~3 移植) 首都圏 6 名地元支援者 1 名シルバー1 名の 8 名で実施
- 2) (4.23~5.15 ビニール掛け3回) 首都21名地元支援者18名シルバー4名延43名で実施
- 3) (5.22~6.19 芽かき、誘引、花かす取り4回) 首都圏9名地元支援者24名シルバー4名延37名で 実施
- 4) (7.2~10 誘引、副梢取り 2回) 首都圏 11 名地元支援者 12 名シルバー2 名延 25 名で実施
- 5) (7.17~24 副梢取り2回) 首都圏10名地元支援者3名シルバー2名延15名で実施
- 6) (8.6~21 副梢取り、ネット張り 2回) 首都圏 18 名地元支援者 3 名シルバー2 名延 23 名で実施
- 7) (8.27~9.18 病害除去、糖度測定3回) 首都圏 16 名地元支援者3名シルバー7名延26名で実施
- 8)(9. 23/24/25、10/1 収穫 4 回)首都圏 67 名、地元支援者 39 名、シルバー7 名延 113 名で実施
- 9) (10.15~11.6 ビニール撤去3回) 首都圏 14 名地元支援者9 名シルバー2 名延25 名で実施
- 10) (11.19~12.4 冬季剪定 3 回) 首都圏 9 名地元支援者 12 名シルバー12 名延 33 名で実施 以上 27 回 (昨年 30 回) の栽培作業に合計 348 名 (昨年 260 名、+34%) が参加、首都圏 181 名、 地元支援者 124 名、シルバー43 名

5. 助成金等の確保

- ・ふくしま地域産業6次化サポートセンター事業補助金→前年度採択、今年度10.8万円受領。
- ・福島フォレスト補助金応募(再応募)→採択(20 年度補助金: 19 万円)→23 年度に繰り越し。
- その他6次化補助金対応できず。

6. 2022ぶどう収穫量および醸造委託先

畑	1号	2号	3号	4号	5号	6号	7号	8号	9号	計
収穫量(kg)	968	726	802	1, 136	1, 032	1, 049	796	225	285	7, 019
2021	1, 156	1,014	1, 240	961	1,027	496	442	13	12	6, 361
委託先	大和B	大和B	いわき₩	逢瀬W	逢瀬W	3 ワイナリー	いわき₩	逢瀬W	逢瀬W	

- ・逢瀬ワイナリーには納品の8割を販売(2,080 kg)、ホンダワイナリー(1,350 kg)、いわきワイナリー(1,000 kg)を合せ4,430 kg(約160万円)を販売
- 1) 逢瀬ワイナリー様約 0.52 t 委託。9.25 納品/仕込、2 月瓶詰、3 月ラベル貼・発送予定(約 450 本)
- 2) 大和葡萄酒様約1.2 t 委託。9.25 納品/仕込(樽2)、6 月瓶詰、7 月ラベル貼・発送予定(約1200本)
- 3) いわきワイナリーへ約 0.87 t 委託。10.1 納品/仕込、4 月瓶詰、5 月ラベル貼・発送予定(約 800 本) 以上合計約 2,450 本のリリースを想定
 - ・B級品約800kgをジュース製造(739本)

- 7. 中期計画第3年度事業計画(赤字未達事項)
- (1) 作付け8年目を迎え今後3年間の栽培体制の再構築
 - 1) 壱心本田グループを薬剤散布、機械草刈りを含めた栽培委託者とし、シルバーセンター固定員を加えた栽培体制により永続的な栽培体制を構築する。一条悟指導員による後方支援を継続する。
 - 2) 登録制による「栽培サポーター制度」を開設し、栽培体験を希望する会員による安定したボランティア体制を構築する。登録会員には傷害保険加入、返礼ワイン・ジュース等をする。
 - 3) 栽培サポーター、首都圏ボランティアが休息、宿泊する施設を現地に確保するとともに、自治体へ公的施設構想を働きかける。
 - 4)3・6・7号畑の糖度アップのためにカルシウム・ヨウ素肥料を施肥する。⇒全畑に施肥
 - 5) 生育不良の8・9号畑に土壌検査、施肥、土壌改良等を実施する。(6・7号畑の再生に成功)
 - 6)薬剤(ボルドー液等)見直しを行い、病害(灰カビ・ベト・晩腐)に効果的かつ廉価な散布計画を行う。⇒白腐病大発生への対応により最小限にとどめた。
 - 7)薬剤散布SS、自動草刈り機モアの更新を検討する。⇒値段交渉が不調となる。

(2) 将来のワイナリー建設の向けた醸造技術の習得

- 1) 2022 年度も継続し、第6回目の委託醸造を実施にあたり、会員参加によるパッケージデザイン、販促活動を企画し、会員参加意識を高めることにより新会員誘致、協働意識醸成に繋げていく。
- 2) 委託醸造、ワイナリーツーリズムの継続により、先進ワイナリーや福島県内の既存ワイナリーとの連携を模索し、将来のワイナリー建設を視野に入れた醸造技術習得、醸造技術者育成を進める。(特に大和・逢瀬・いわき各ワイナリー、会津地域のワイナリー)
- 3) 福島県内の既存ワイナリーとの連携により、福島県に対し(仮称)福島ワインカレッジの創設に向けた活動を進める。

(3) 六次産業化に向けた販売ルートの確立

- 1)会員限定販売の酒類販売免許申請を更新し、会員以外への販路を設け3,000本販売体制をつくる。
- 2) 想定する販路は①会員由来の飲食店 10 店 240 本 (達成 240 本) ②会員由来企業 5 社 120 本 (達成 240 本) ③会員紹介の(仮称)準会員 30 人 240 本 (達成 120 本) ④会津日本酒醸造者、旅館 4 か所 120 本 (達成 60 本) など。それぞれ本数相当の割引も検討。
- 3) 事業費確保のために、栽培ぶどうの外販を継続する。目標約3トン(約100万円)。
- 4) ワインコンクールへの出展、入賞。
- 5) B級ぶどうを活用したシャルドネジュースの製造 400 本程度(達成 739 本製造、約 300 本販売)。販路(道の駅等) 開拓依頼。
- 6)以上、六次産業化に向けた(仮称)ブランディング戦略検討チームを、販売戦略担当理事を中心に会員有志の参加により組成する。

(4) ワインづくり思想に基づくワイナリー事業の検討

- 1) 栽培、醸造、販売の六次産業化実現に向け、NPO と新組織の役割分担による、①NPOが六次産業化全て手掛ける②NPOが栽培管理を行い新会社が醸造・販売を行う(併存)③NPOを解消し新会社に六次産業化をすべて移す等の検討を行う。
- 2) 近県の小規模ワイナリー数か所(いわき・喜多方 JUN・川内・ルサンク各ワイナリー) にワイナリー開設に向けた5W1H をヒアリングし資料として取りまとめる。⇒全国先進ワイナリーを調査

- 3)地域活性化に熱心な自治体をヒアリングし、福島県内のワイナリー立地の新しい在り方、複合施設の 新形態等を検討する。(特に会津若松市、会津美里町、下郷町)
- 4)以上、ワイナリー建設に向けた(仮称)ワイナリー建設検討チームを、ワイナリー検討担当理事を中心に会員有志の参加により組成する。

(5) ICT を活用したデータ収集、病害・獣害等への備え

- 1) ICT を活用した気象データ、現地作柄データのモニタリング・データ化手法を会津大学、先進ワイナリー等にヒアリングし、その費用対効果を検討する。
- 2) 地域と連携した科学的鳥獣害対策を検討する。

(6) 福島ワイン文化醸成に向けた広域ネットワークの構築

1)会津地域のワイナリーと連携し、福島県ワイン文化醸成、ふくしまワイン街道構築の足がかりを作る。

8. その他事項

- 1)農水省東北農政局福島支局統計チームより作柄ヒアリングを受けた。会津地域のワイン用ブドウ作柄は、8月長雨、9月日照不足の影響で、特に雨除け設備がない圃場ではベト病、灰カビ病、白腐病が発生し、悪かった一昨年ほどではないが3年続きで作柄は下回ったとのことである。
- 2) 新鶴地区は9月に全地域で白腐病が発生し、概ね30%(当会は10%)の減収となった。

9. 理事体制

- 1) 4期1年目を新たな体制で執行した。
- 2)12月10日付で齋藤理事より今期での退任伺いが提出された。

以上